

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	芸術 I	年次	1
講座名	美術 I	単位数	2
授業形式・概要等	制作を通して、基本的な描法や色彩と形の基礎的な知識と技能を演習しつつ習得します。基礎的な知識と基本的な技能を応用する制作をします		
到達目標	基礎表現に必要な技術を習得し自ら制作を進めることができる		
使用教材	教科書：高校生の美術 1（日本文教出版） 副教材：筆記用具等の文房具、ミリペン等の専門画材		
学習の アドバイス 注意事項等	・ 授業形式で挙げた要件を満たした制作を丁寧に進め労作を評価の対象とします ・ 下記①～③の観点で総合的に評価します ・ 継続履修科目が次年度に設定されていることから、単年度で高校美術の基礎基本的な考えを制作に活かします ・ 静寂・持続・主体・労作＝秀作		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	制作するための知識を活かし道具を正確に扱い制作することができる	授業で得た知識（活字）を制作で実践する
②思考・判断・表現	創造的に表現することができる	制作をする中で自ら気づきを作品に取り入れる
③主体的に学習に取り組む態度	他者の考えを受け入れ自らの制作を振り返り内面観することができる	他者への助言を自らに置き換え制作に取り込む

学習計画

月	学習内容（単元名）	評価の規準と観点
4	【描法に関する基礎演習】 1、明暗法 ～立体の意義と存在・陰影～ 2、線描法 3、点描法 【デザイン～平面構成Ⅰ～】 1、線による構成 2、色から受ける感情を元に配色する（寒暖・軽重・進退など） 【絵画～点描による制作～】 1、コラージュ（異空間）の制作 2、異空間の転写と構成 3、点による制作	＜年間を通して＞ ①立体に見えるように明暗を用いて鉛筆で描くことができたか ②陰影の性質の違いや特徴を捉えて制作できたか ③シャープペンシルやボールペンなどを用い線描や点描制作を自ら進めることができたか ④立体に見えるためや存在感を出すために自らの考察をもとに制作を進めることができたか ①条件を理解し製図ができたか ②配色に関する基礎知識を応用し、テーマや条件に沿った色を考察制作することができたか ③彩色や混色（重ね塗り）の基礎知識を応用し作品を制作することができたか ①あり得ない世界をコラージュ制作にすることができたか ②コラージュを下書きとして点描に転化させることができたか ③手法を自ら探ることができたか ④時間と制作を比例させることができたか（時間を使い果たしたか）
3		

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術Ⅱ	年次	2
講座名	美術Ⅱ	単位数	2
授業形式・概要等	美術Ⅰをふまえ、主体的に制作を進めることを最大の目標とします 課題や作品の方向性を自ら見いだす取り組みをします 自らが表現方法を模索、工夫し、計画的かつ、想像的な表現制作をします		
到達目標	基礎表現に必要な技術を習得し自ら制作を進めることができる		
使用教材	教科書：高校美術Ⅱ（日本文教出版） 副教材：筆記用具、色鉛筆等の身近な彩色画材、焼石膏		
評価	授業形式で挙げた要件を制作進行の中で、下記の3観点で総合的に評価します また、労作を評価の対象とします		
学習のアドバイス 注意事項等	静寂・持続・主体・労作＝秀作		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	制作するための知識を活かし道具を正確に扱い制作することができる	美術Ⅰで得た知識（経験）を制作で実践する
②思考・判断・表現	創造的に表現することができる	制作をする中で自ら気づきを作品に取り入れる
③主体的に学習に取り組む態度	他者の考えを受け入れ自らの制作を振り返り内面視することができる	他者への助言や指導者の話を自らに置き換え制作に取り込む

月	学習内容（単元名）	評価のポイント（観点）
4	【平面構成】 1、下絵のプロセス 2、作品性の追求 3、空気遠近（明暗）法の応用 4、デザインとしてのアピール性 5、色彩具（色鉛筆）の有効使用 6、認めあい	＜年間を通して＞ ① 制作に適した画材を自ら選ぶことができたか ② 有効な構成ができ、自らの意図を明確にすることができたか ③ 有効と思われる画材（色鉛筆の扱いや、制作箇所による定規や消しゴムの利用）を適切かつ効果的に選ぶことができたか ④ 昨年度取得した空気遠近（明暗）法を応用することができたか ⑤ 画面の保護を考えた制作を進めることができたか ⑥ 展示することによって、デザインの意義を知るとともに、他の良さを認め合うことができたか
5		
6		
7		

8		
9		
10	【立体彫刻】～抽象彫刻～ 1、偶然を作為に 2、カービング 3、想定デッサン	① 石膏が硬化していく感触を自らの手で感じるこ とによって形体を想像しカービングに結びつけ ることができたか ② 自らの意思と意のままにならない硬化進行の過 程から、望ましい方向性を模索することができ たか ③ 石膏の特徴を生かし削られ形成されたかたちを 考えることができたか ④ 素材を研究し乾燥による磨きか、湿りの磨きか を、自ら制作工程を模索しつつ効果的な手法を 選択することができたか ⑤ 異空間に対する存在を、投影することができた か（ジオラマ制作～広角レンズ搭載のデジタル カメラでの撮影）
11		
12		
1		
2		
3		

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術Ⅲ	年次	2
講座名	美術Ⅲ	単位数	2
授業形式・概要等	美術Ⅱをふまえ、制作行為とは何か思い考えつつ制作を進めます よって主体的思考を伴った制作時間となることを理想とします 自らが表現方法を模索、工夫し、計画的かつ、想像的な表現制作をします		
到達目標	創作活動そのものを芸術活動と捉えつつ自ら制作を進めることができる		
使用教材	教科書：高校美術Ⅲ（日本文教出版） 副教材：筆記用具、色鉛筆等の身近な彩色画材、薪		
評価	授業形式で挙げた要件を制作進行の中で、下記の3観点で総合的に評価します また、労作を評価の対象とします		
学習の アドバイス 注意事項等	静寂・持続・疑問・主体・労作 ～年間1素材1制作 疑問視肯定制作の継続～		

評価について

観点	規準	方法
①知識・技能	制作するための知識を応用し道具を適切に扱い制作することができる	美術Ⅰ美術Ⅱで得た知識（経験）を制作で実践する
②思考・判断・表現	創造的に表現することができる	制作をする中で自ら気づきや疑問を制作（作品）に取り入れる
③主体的に学習に取り組む態度	自らの考えを疑問視し自らの制作を振り返り制作することができる	他者への助言や指導者の話を自らに置き換え制作に取り込む

月	学習内容（単元名）	評価のポイント（観点）
4	【選択制作】 1、素材選択 2、素材追求 3、制作追求 ①プランニング ②コンセプト 4、道具の有効使用 ①模索 ②制作 ③模索 ④制作 6、認めあい	＜年間を通して＞
5		① 自ら選択した制作に対し適した画材や道具を自ら選ぶことができたか
6		② 自ら選択した制作に対し有効な構成ができ、自らの意図を明確にすることができたか
7		③ 自ら選択した制作に対し有効と思われる画材を適切かつ効果的に選ぶことができたか
8		④ 昨年度一昨年度収得した空間処理を応用することができたか
9		⑤ 安全性を考えた制作を進めることができたか
10		⑥ 空間展示することによって、デザインやデッサンの意義を知るとともに、自他の良さを認め合うことができたか
11		
12		
1		

令和 8 年度 年間指導計画（シラバス）

概要

教科名	鑑賞研究	年次	3
講座名	鑑賞研究	単位数	2
授業形式・概要等	制作や演奏はせず、芸術Ⅰの教科書を使用し鑑賞について探究します。教科書に取り上げられている様々な作品や活字に触れながら、不思議や疑問を自考・追求します。		
到達目標	鑑賞の学習を通して、造形的な見方・創造的な考え方を働かせ、自らの考えを肯定し活字に現わすことを続けます。		
使用教材	高校生の美術（日本文教出版） 指導者側で準備する 副教材：なし		
学習のアドバイス 注意事項等	自分なりの考えを 活字 にしながら、1年間で1冊のノートを作ります。インターネットなどで調べればわかることよりも、 教科書の中から「何故・不思議」 を引き出します。2時間でノート見開きを目標に ビジュアル（絵や写真）を考察・追求し活字化します。 静寂（自学・自習）		

評価について

観点	規 準	方 法
①知識・技能	芸術や芸術作品についての理解を幅広く深め追求する。	毎時間の取組内容（ノート制作のプロセス等）が進行する
②思考・判断・表現	芸術や芸術作品について根拠を明確にすることが出来る。	ノート制作の中で、主題を明確にするためのビジュアル的効果を模索する（レポート制作）
③主体的に学習に取り組む態度	芸術や芸術文化を尊重しようとする態度が制作に反映させることができる。	時間毎にノート制作が進行している

学習計画

月	学習内容（単元）	評価の規準と観点
4	○芸術作品の鑑賞・研究資料の作成	・毎時の活動内容を上記【評価について】事項に基づいて総合的に評価する。
5		
6		
7	○取り組みの振り返り	
8	～主題の明確化～	
9		
10	○鑑賞の焦点化	
11		
12	○研究主題のまとめ	
1	～あとのがきの作成～	